

概況

令和7年8月に発生した事故についてお知らせします。

★工事関係者事故（死亡0件、傷害0件）

- ・この期間、事故は発生しませんでした。
今後とも事故のない安全な建設現場を目指しましょう。

★公眾事故（死亡0件、傷害0件、物損0件）

- この期間、事故は発生しませんでした。
今後とも事故のない安全な建設現場を目指しましょう。

トピックス 〈熱中症〉

令和7年6月1日に改正労働安全衛生規則が施行されています。
まずは「STOP」熱中症クールワークキャンペーンを参考に対策しよう。

秋となってきましたが、まだまだ熱中症予防対策が必要です。

キャンペーン期間（5月～9月）の対策を実践しよう！

STOP!

熱中症
クールワーク
キャンペーン

職場での熱中症により近年は、
一年間で約30人が亡くなり、
約1,000人以上が4日以上
仕事を休んでいます。

キャンペーン実施要綱
～キャンペーン期間～
4月 5月 6月 7月 8月 9月
準備期間 実行期間

準備期間 4月 にすべきこと

労働衛生管理体制の確立

事業場ごとに熱中症予防管理者を選定し熱中症予防の責任体制を確立。

暑さ指数（WBGT）の把握の準備

JIS規格に適合した暑さ指数計で暑さ指数計を準備し、点検

作業計画の策定

暑さ指数に応じた休憩時間の確保、作業中止に関する事項を含めた作業計画を策定

休憩場所の確保の検討

冷却剤を備えた休憩場所や涼しい休憩場所の確保を検討

教育研修の実施

管理者、労働者に対する教育を実施

緊急時の対応の事前確認

緊急時の対応（異常発生における連絡体制や対応手順等）を確認し、関係者に周知

キャンペーン期間 5月～9月 にすべきこと

暑さ指数の把握と評価

JIS規格に適合した暑さ指数計で暑さ指数を随時把握
地域を代表する一般的な暑さ指数（微暑値）を参考とするこも有効

測定した暑さ指数に応じて以下の対策を徹底

暑さ指数の低減

準備期間に検討した施設対策を実施

服装

準備期間に検討した服装を着用

ブレクーリング

作業開始前や休憩時間中に深部体温を下げる

暑熱順化への対応

熱に慣らすため、7日以上かけて作業時間の調整
※新入職者や休み明け労働者は別途注意すること

日常の健康管理

当日の朝食の未摂取、睡眠不足、前日の多量の飲酒が熱中症の発症に影響を与えることを指導し、作業開始前に確認

異常時の対応

あらかじめ作成した連絡体制や対応手順等の周知徹底
少しでも本人や周りの気実を感じたら、あらかじめ作成した連絡体制や対応手順等に基づき適切に対応必ず一旦作業を中断、全身を濡らして降温することによって身体を冷却
※症状が回復しない場合は継続なく病院に搬送する（症状に応じて救急隊を要請）

休憩場所の整備

準備期間に検討した休憩場所を設置

作業時間の短縮

作業計画に基づき、暑さ指数に応じた休憩、作業中止

水分・塩分の摂取

水分と塩分を定期的に摂取（水分等を携行させる等を考慮）

健康診断結果に基づく対応

次の検査を受けた方には医師等の意見を踏まえ配慮①電解質 ②高血圧 ③心疾患 ④腎不全 ⑤精神・神経障害 ⑥広範囲の皮膚疾患 ⑦感冒 ⑧下痢

作業中の労働者の健康状態の確認

近視を矯正しているかを確かめ、「バグ」を絡ませる等労働者にお互いの健康状態を留意するように指導

【本資料は厚生労働省「熱中症予防対策ガイドライン」（平成28年改訂版）第3章「暑熱環境の改善」と第4章「労働者の健康管理」に基づき作成されています。関係機関・団体との連携による取り組みをお願いします。また、本資料に掲載されている内容は、あくまで参考情報です。具体的な対策については、関係機関・団体にご相談ください。一部記載内容が最新の情報と異なる場合があります。最新の情報は、厚生労働省ホームページ（http://www.mhlw.go.jp/stf/seisaku/seisaku_00002.html）でご確認ください。

厚生労働省 経済産業省 労働政策研究・研修機構

(R.7.2)

一現場・安全ひと工夫



「ちょっとした工夫」で、安全な現場環境づくりの推進をお願いします！

これまでの事例

- ◎ 仕上げ前通路床に、文字ペイント「安全通路」で安全確保 (R6-12月号)
- ◎ 「色分けカラーコーン」で資材置場や立入禁止区域が一目瞭然 (R7-2月号)
- ◎ 現場入り口に、服装、保護具確認用の「鏡」設置 (R6-9月号)
- ◎ 安全掲示板デジタルサイネージで作業タイムな安全向上 (R6-11月号)
- ◎ 安全対策廃材に、「石綿含有注意」標識で見える化 (R7-1月号)
- ◎ 「携帯デジタル風速計」で、みんなが安全確認 (R6-10月号)
- ◎ 重機ボディに、「点検状況」マグネットボード貼付けで見える化 (R6-10月号)
- ◎ 盛土補強施工に、引っ掛け付付単管手摺設置で安全向上 (R7-1月号)
- ◎ 「傾斜センサー杭」で異常感知 (R6-9月号)

好事例は引き続き紹介します。アイデア募集中！

A-press について

『A』は、ずばり安全（Anzen）の“A”
『A』は、アルファベットの最初の文字
工事等に当たり、安全は最も優先されます。
安全意識の向上と情報共有のために、
工事等の受発注者に毎月発信していきます。

～ ヒヤリ・ハット事例 ～

（事故には至らなかったがヒヤリ、ハットした事例）

- 1 ダンプトラックにて土砂を搬送中、飲み物を取ろうとしてハンドル操作を誤り、電柱に接触しそうになった。
- 2 始業時点検をしなかったため、ナットが緩んだことに気づかず、走行中にダンプトラックのタイヤが外れた。
- 3 公道を走行中、車線変更のときに並走する車両を見落とし、接触しそうになった。

工事車両はパワフルだから繊細な心配りを

～ 安全ひろば ～

1
m
の
油
断
は
一
命
を
と
る



脚立使用の4大ポイント

- 墜落制止用器具（ハーネス）は適切に着用
高さに合わせて使い分け
- 天板に立たない、座らない
身体のバランスを崩すとリカバリできない
- 無理な姿勢にならない
体操の選手でも落下する
- 脚立の足場確認
丈夫な床面に水平設置